

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区名	平野区
学校名	大阪市立瓜破東小学校
学校長名	新井 寿栄

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に关心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・瓜破東小学校では、第6学年 30名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

本校の平均正答率の対全国比は、国語科0.81ポイント、算数科0.74ポイント、理科0.79ポイントで、対全国差は国語科-12.8ポイント、算数科-15ポイント、理科-12.1ポイントであった。また平均無解答率の対全国比は、国語科1.8ポイント、算数科1.5ポイント、理科0.89ポイントで、対全国差は国語科+2.7ポイント、算数科+1.8ポイント、理科-0.3ポイントであった。これらの結果は、いずれも令和6年度（未実施の理科を除く）より後退している。

しかしながら、児童質問紙における「自分には、よいところがあると思いますか」の項目においては、肯定的回答が75.8%で令和6年度より+25.8ポイントと大きく向上している。また「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目においても、肯定的回答が100%で令和6年度より+15.2ポイントと大きく向上している。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕選択式問題では、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかを見るものが、大阪府・全国の正答率を超える結果であった。

〔算数〕記述式問題では、目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかを見るものが、大阪府の正答率を超えており、全国との比は0.97という結果であった。

〔理科〕選択式問題では、水が氷に代わる温度を根拠にオホーツク海の氷の面積が減少した理由を予想し、表現することができるかどうかを見るものが、大阪府・全国の正答率を超える結果であった。

質問調査より

学習の土台に関する質問に分類される項目では、「自分にはよいところがあると思いますか」の肯定的回答が75.8%で対全国比が0.87となっている。

また、「将来の夢や目標を持っていますか」の項目では、肯定的回答が90.9%で対全国比が1.09となっている。

さらに「人が困っているときは、進んで助けていますか」の項目と「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目においては、どちらも肯定的回答が100%であった。

児童の自尊感情を高める教育活動を推進しようと令和6年度より取り組んでいる【特別活動】の研究の成果が少しづつ表れていると考える。

今後の取組(アクションプラン)

本校の喫緊の課題に「学力向上」「自尊感情の低さ」が挙げられる。これらの課題を一つずつ解決するために、教職員全体で子ども達が「学校が楽しい」と思える環境づくりに取り組んでいる。その一つが【特別活動】である。児童質問紙「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」の項目での肯定的回答が90.9%で対全国比が1.09となっている。「学級会」で話し合うことは、議題に対して自分の意見をもつとともに友達の意見をよく聞き、考えることが必要である。これらの力は、日々の学習の場だけでなく、実生活でも大いに役立つものである。今後もチームうりひがの一員である自覚をもち、個々の教員が自己の指導力向上に努め、本校の課題解決を図れるよう取り組みを継続していく。

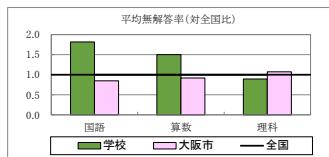
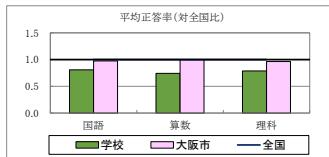
【 全体の概要 】

平均正答率(%)

	国語	算数	理科
学校	54	43	45
大阪市	65	58	55
全国	66.8	58.0	57.1

平均無解答率(%)

	国語	算数	理科
学校	6.0	5.4	2.5
大阪市	2.8	3.3	3.0
全国	3.3	3.6	2.8

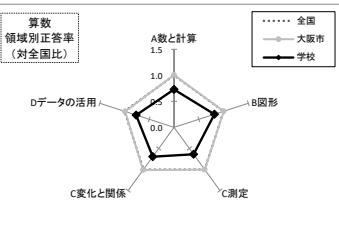
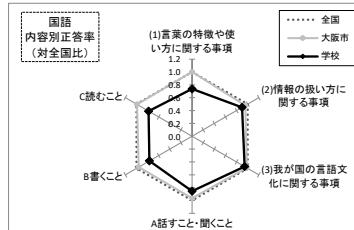
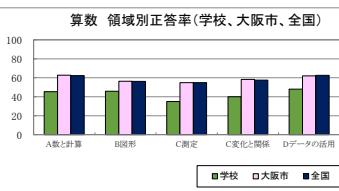
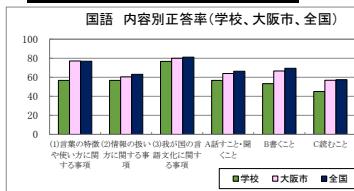


【 国語 】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方にに関する事項	2	56.7	77.1	76.9
(2)情報の扱い方にに関する事項	1	56.7	60.4	63.1
(3)我が国の言語文化に関する事項	1	76.7	79.9	81.2
A 話すこと・聞くこと	3	56.7	64.0	66.3
B 書くこと	3	53.3	66.7	69.5
C 読むこと	4	45.0	56.9	57.5

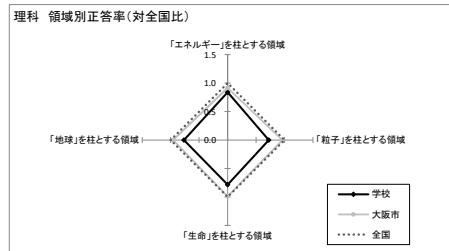
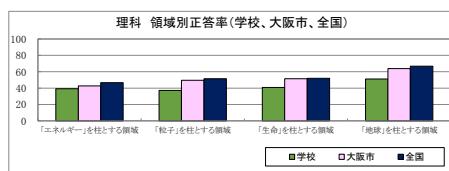
【 算数 】

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	45.4	62.7	62.3
B 図形	4	45.8	56.4	56.2
C 測定	2	35.0	54.9	54.8
C 変化と関係	3	40.0	58.2	57.5
D データの活用	5	48.0	61.9	62.6



【 理科 】

学習指導要領の区分・領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 「エネルギー」を柱とする領域	4	39.2	42.7	46.7
分 「粒子」を柱とする領域	6	37.2	49.5	51.4
B 「生命」を柱とする領域	4	40.8	51.4	52.0
分 「地球」を柱とする領域	6	51.1	63.8	66.7



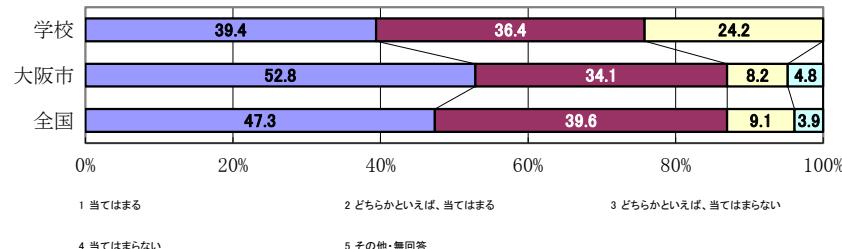
児童質問より

□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

質問番号
質問事項

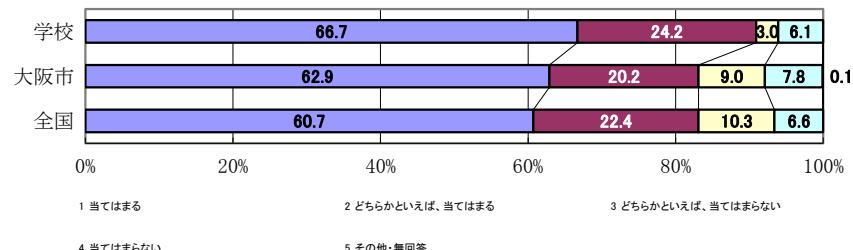
5

自分には、よいところがあると思いますか



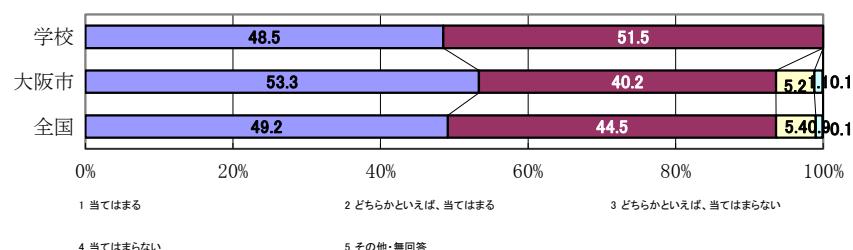
7

将来の夢や目標を持っていますか



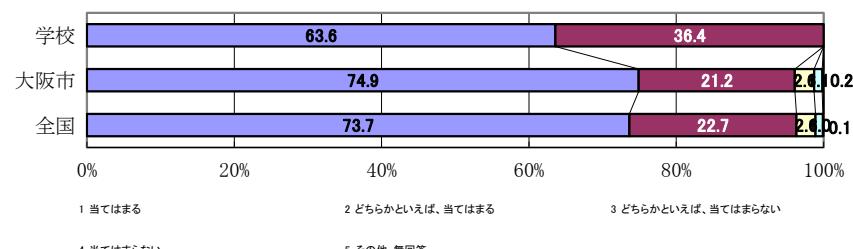
8

人が困っているときは、進んで助けていますか



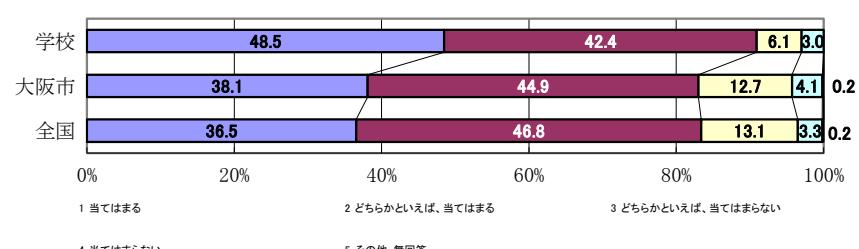
11

人の役に立つ人間になりたいと思いますか



41

あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか



学校質問より

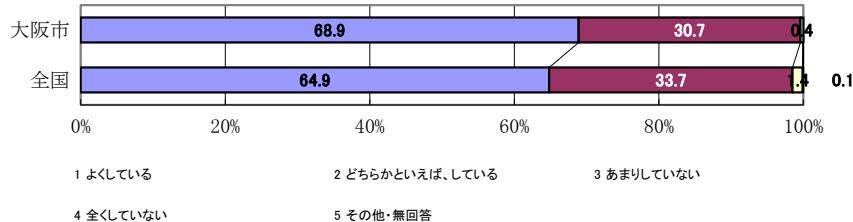
■1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8 ■9 ■10

質問番号
質問事項

18

授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか

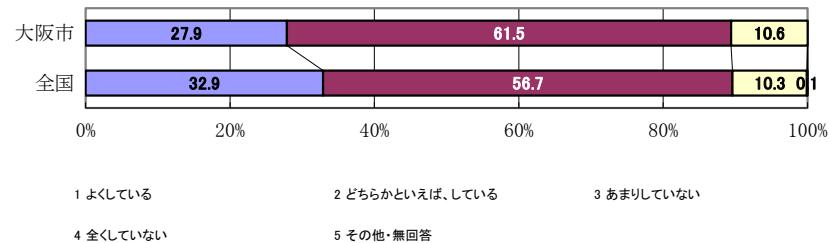
学校 「よくしている」を選択



19

個々の教員が自らの専門性を高めるため、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加していますか(オンラインでの参加を含む)

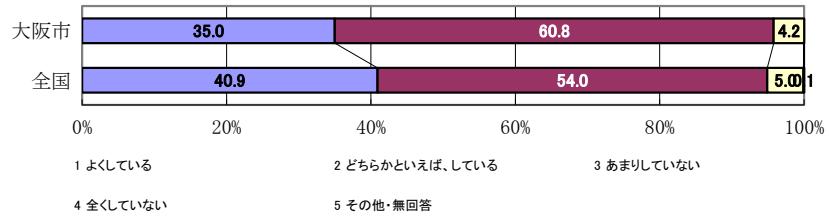
学校 「よくしている」を選択



37

調査対象学年の児童に対して、学級生活をよりよくするために、学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法等を合意形成できるよう指導を行っていますか

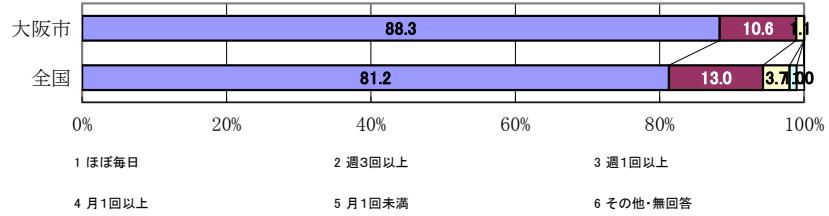
学校 「よくしている」を選択



55

前年度に、教員が大型提示装置等(プロジェクター、電子黒板等)のICT機器を活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか

学校 「ほぼ毎日」を選択



56

教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会はありますか

学校 「ある」を選択

